改修理念

門前通りと仲見世の
接点にあるポケットパークは
重要な場所にある。

塔のデザインの変更と
舞台の増設により、
ポケットパークの
存在価値を高める。

そして、日本の良き和風を残し、
未来へと繋げていく
近代的和風デザイン。

巨大提灯

町の新たなシンボルとして、時計塔を改修し、中に巨大な提灯を配置します。ポケットパーク内にシンボル的要素を取り入れることで神社主体のイベント時でも、多くの観光客を門前通りへ引き込みます。また、夕方には提灯を点灯させることで、観光時間の延長を狙います。

やぐら舞台

今までポケットパークで行われていたイベントや休憩スペースとしての機能を損なわないように、一階部分には手を加えず二階の増設によって機能性を充実させ、今までにできなかったイベントの可能性を拡張します。また、手すりと提灯に赤を使い、笠間朱の定着を図ります。

格子

門前通りや仲見世に向けた壁は格子を採用し、光や風、視線を抜けさせ、休憩している人により大きな開放感を与えます。また、格子に板状のものをはめ込み、これを随時交換できるようにします。月ごとのイベントや門前通りの各店舗の新しい情報を常に発信できるようにします。

イベント時の活用方法

菊祭り

舞台の上にも展示することで、より立体的に菊の展示が可能となります。夜間には提灯が点灯し、菊と提灯の「和風」が融合し、新たな観光名所となります。

ライブ

床を使ったイベント

ポケットパークの壁をバックにステージとして活用します。ライブやスピーチコンテストなど行うことができます。

マーケット

舞台を屋根として利用

舞台を屋根にして物品販売などを開催します。また大きな屋根ができることから濡れると困るものの展示ができます。

舞台ショー

舞台による新しいイベント

舞台の増設で今までになかった、展示やイベントを行えます。巨大提灯と合わせて盆踊りや太鼓ショー等が行えます。

ポケットパークの
具体的提案

提灯

塔には巨大な提灯を設置し、商店街の通りから大きな笠間朱が見えます。夜には提灯を点灯させ、夜の門前通りに新たな観光方法創りだします。

舞台と手すり

やぐらを増設し、イベント時には舞台に、雨の日は屋根として機能します。手すりには笠間朱を用い、神社と門前通りのデザインを取り込みます。

歌碑

壁面を板張りとし、小椋圭氏が作曲した歌を銅版に転写し、和の雰囲気を残したまま歌を継承します。空いたスペースは掲示板として利用します。

PR マップ

PR マップを格子に取り付け、様々な情報を掲示します。容易に取りかえられ、観光客や商店の人が前を通るこの場所で、情報発信を行います。

木板

和の質感を出すために壁面は木板にし、木の質感の分かりやすいメープル色で塗装します。木を使うことで補修が容易におこなえます。

木製の格子

仲見世と門前通りに面している壁面は日本古来からのデザインである格子を採用します。格子の隙間から光や風、視線を抜けさせ開放感を向上させます。

笠間市観光マップ

周辺の主要な観光地には建物を立体的にイラスト化することで目的地の外観を理解できるようにしました。また稲荷神社の神氏である狐を案内キャラクターとしてマップに登場せます。こうすることでポケットパークに訪れた人が同じように観光をしたいと思わせたいです。

門前通りマップ

店舗を筆調で表現し、古風の街並みを町全体の風景で感じ取れます。笠間朱を用いた提灯に店名を書き、駐車場には扇状のマークで記しました。ベンチの設置をマップで表現し、観光客が長い距離の中で何回か休むことができるように、ベンチを点在させます。

笠間稲荷神社を中央に添え、なだらかな道路で門前通りを表現しました。街並みが笠間稲荷神社を中心に建っているで、観光客に「自分のいる場所が門前通りの要なのだ」ということに気づかせます。笠間稲荷神社を笠間朱の線で表現することで、笠間朱の発信源がここだと伝えることができます。